

中学校第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 視点を変えて読んでみよう

教材名 「字のないはがき」 向田邦子 (光村図書 国語2) (東京書籍 新しい国語3)

2 単元とその指導

(1) 生徒観

本学級の生徒は、朝読書などでも小説等を積極的に読む生徒が多いクラスである。1年生のころは歴史マンガを読む生徒が多かったが、2年生になり、小説類を読む生徒が増える傾向にある。しかし、特に女子生徒においてはいわゆるケータイ小説を読んでいる生徒も多く、ストーリー展開の派手さに引かれている生徒も少なくないと考えられる。

学級の雰囲気は男女が強く意識することもなく、比較的自由的な雰囲気で発言し合うことができる。したがって、授業展開にも意見の交換や相互評価などを入れて、互いに学び合う授業を構想したいと考える。

(2) 教材観

脚本家向田邦子の随筆集「眠る盃」に所収されたこの文章は、外では保険会社の支店長を務めるほどに外面がよいが、家では酒を飲んではんしゃくを起こして暴力をふるう暴君の父親を娘の視点から描いた文章である。そんな父の「私」にあてた手紙、そして、妹の学童疎開に際して持たせたおびただし数のはがきに込めた思い。照れ性で日ごろは決して見せることのない優しさや子どもたちを心配する気持ちが、筆者の淡々とした語り口でつづられていく。

視覚的に目を引くものやドラマティックな展開を好む生徒にはあっさりとしていて一見物足りないと思わせる文章かもしれないが、言葉にできない思いや素直に言い表せない父親の心情を読み取り、主題に迫っていくことのできる教材である。

(3) 指導観

読みを深めるために、筆者や父親の心情の変化を読み取っていくよう指導する。特に3人称で書かれている父親の心情に迫るために、本時では父親の立場に立ち、その人になりきって書くリライトを学習活動を取り入れる。その際、筆者(娘)側の言葉を父親側の言葉に書き換えたり、父親の心情を生徒自身の言葉で書き加えたりすることを通して、「父親」という生徒たちには未体験の心情を想像させたい。立場を換えて物事を見たり、考えたりすることは日常生活でも不可欠なものであるものの、そのような概念がまだ形成されていない生徒もいる。本単元では随時書き換えの文章のモデルを示しながら生徒の書く意欲を持続させ、書き換えを重ねていくことで自然と父親の心情を想像して読むことへ導きたいと考える。そのことから読みが深まることを実感させ、文学作品を読み味わう足掛かりとしたい。

(4) 言語活動について

ア 立場を換えて書く(リライト)

(ア) 娘の立場から書かれた文章を父の立場から書き換える。→父親の心情を想像して読む。

(イ) 自分の言葉で父の心情を書き加える。→父親の心情を読み深める。

(ウ) 筆者の文章に書かれていることを基に、「書かれていないこと」を想像して書き加える。
→父やそれ以外の登場人物の言動や心情の変化にも着目した読みを深める。

イ 意見交流を行う（グループ活動）

(ア) 輪番制で進行役をメンバー全員が担当する。

(イ) 自分の文章を紹介し、評価を受ける。

→生徒は自分の書いたものがあれば自然と他者と比べて聞くようになり、より意欲的に他者の意見にも耳を傾けるようになる。

(ウ) その時間ごとに指導目標に応じた相互評価の観点を示せず。

→ポイントを絞って聞くことに集中できる。「声の大きさ」、「文章量」、「文章の流暢さ」ではなく、本時に学ぶことが明確になる。

3 単元の指導目標

筆者（娘）側から書かれた文章を父親側からの文章に書き換えることを通して、父親の子どもたちに対する心情を想像させ、読みを深めることができるようにする。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	ア 登場人物の言動の意味などを考え、父の心情を想像しながら読もうとしている。 【C 読むこと ア, イ】
読む能力	イ 手紙の中や娘の学童疎開をめぐる出来事に表れる父の人柄や子どもたちへの思いを読み取っている。 【C 読むこと イ】
	ウ 筆者のものの見方や考え方に触れ、自分の考えをまとめている。 【C 読むこと イ】

5 単元計画（全5時間 本時3／5）

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	○文章を読み、父から私への手紙から分かる父の姿を読み取る。	○文章全体を前半「父から私への手紙」、後半「父が妹に持たせたはがき」としてとらえさせる。 ○父が筆者（私）に送った手紙に表れる父の人柄、日常の父の様子の描写に表れる父の人柄を読み取らせる。 ・暴君 ・照れ性 ・折り目正しい ・保険会社の支店長 ・筆まめ	ア 手紙の文面に表れる父の人柄と日常の様子からうかがえる父の人柄を読み取ろうとしている。 【発言・ワークシート】
2	○末の妹が学童疎開した時のことから分かる父の人柄や心情を読み取る。	○末の妹の学童疎開を決めた時の父の心情に気づかせ、末の娘に対して見せた父の優しい心遣いであることを理解させる。 ○父の願いとは裏腹に疎開先で日々変化していく妹の様子を読み取らせる。 ○末の妹が家に戻ってきた日の父の様子を読み取らせる。	イ 妹の変化の様子を時系列で読みとっている。 【ワークシート】 イ 父の言動に父の優しさが表れていることに気付いている。 【ワークシート・発言】

<p>3 (本時)</p>	<p>○ 筆者の文章を父からの立場で書き換えて、父の心情を想像する。 (リライト1)</p>	<p>○これからの学習が書き換え（リライト）によって読み深めることを伝え、学習の見通しを持たせる。 ○教師が作成した書き換え（リライト）の例文を読ませ、筆者（娘）側から書かれた文章を父親の立場から書き換えるということを認識させる。 ○妹が帰ってくる日の場面（最終場面）をリライトさせる。 ○リライトしたものをグループで発表し合い、交流させる。 ○別の場면을リライトすることを伝え、見通しをもたせる。</p>	<p>ウ 立場を換えて書き、自分の言葉で父の気持ちを書き加えている。 【ワークシート】</p>
<p>4</p>	<p>○末の妹を学童疎開へ出す場면을父の立場から書き換えて、父の心情に迫る。 (リライト2)</p>	<p>○教師が作成した例文を示し、書いていないことを想像して、生徒自身の言葉で書き加えてもよいことを伝え、リライトに取り組ませる。 ○学童疎開について補足説明を行う。 ○年端も行かぬ妹を疎開に出すという父親の心情を想像し、リライト文に反映させるようにする。 ○リライト文をグループで発表し合い、交流させる。</p>	<p>ウ 自分の言葉を使って父の気持ちを書いている。 【ワークシート】</p>
<p>5</p>	<p>○作品を通して筆者が伝えたかったことをまとめる。</p>	<p>○筆者の父に対する思いや父の年齢を越えた今の筆者が思うことなどを想像して感想をもつ。</p>	<p>ウ 筆者のものの見方や考え方に触れ、自分の考えをまとめている。 【観察】</p>

6 本時の指導

(1) 本時の指導目標

筆者の文を父が書いた文に書き換えさせ、子どもを思う父の心情に迫らせる。

(2) 本時の展開 (3 / 5)

過程	学習活動	教師の指導・支援 *評価
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、リライトに挑戦することを確認する。</p>	<p>○末の妹が学童疎開から帰ったときの父の様子をワークシート①で確認する。</p>
<p>筆者の文章を父が書いた文章に書き換えて、父の心情を想像しよう。</p>		
展開	<p>2 リライトの例①を読む。</p> <p>3 リライトの例②を読み、その文章の続きをワークシートに続けて書く。</p> <p>4 グループでリライト文を発表し合う。</p>	<p>○父からの手紙を想定し、教師が作成したリライト文を配布し、モデルとして示す。 [リライトの例① 〈父から娘への手紙〉]</p> <p>○筆者（娘）の立場で書かれている文章を、父親の立場から書き換えるということを認識させる。</p> <p>○末の妹が学童疎開から帰った時の様子を父が書いたものと想定し、教師作成の文に続けて生徒が書くようにしたワークシートを準備しておく。 [ワークシート③ 〈リライトの例②妹が帰ってきた日〉]</p> <p>*立場を換えて書き、父親の心情を読みとって書くことができる。</p> <p>○4人グループを作り、グループ内でリライト文を発表させる。</p> <p>○今日の進行係を座席で指定し、スムーズに進行できるよう配慮する。</p> <p>○相互評価シートに示した評価観点をもとに、お互いに発表し合ったリライト文を評価し合うことを指示する。 [ワークシート④]</p>
終末	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>6 次時の学習活動を聞き、もう一度リライトに挑戦することを確認する。</p>	<p>○評価の観点に基づいて、自分自身の学習を振り返らせる。 [ワークシート④]</p> <p>○本時と異なる場面をリライトすることを伝え、次時への見通しをもたせる。</p>